

このスポット・おすすめ!

おいしいコーヒーを片手に過ごす
ぜいたくなカフェ時間

お休み処 **おおはま**



木のぬくもりに満ちた開放的な店内を
オリジナルのパンフレターが彩る

老若男女を問わず、カフェが好きな人は多いはず。一人で気ままに過ごしたり、気の合う友人らとおしゃべりを楽しんだり、時間を気にせずのんびりしていただきたい。読谷村波平にある「お休み処 おおはま」は、そんなカフェ好きのニーズを熟知したオーナーが開いた、カフェ好きのためのくつろぎスペースです。

「看板メニューのコーヒーは、飲み比べをして、本当においしい!」と思っただけでなく、焙煎豆を内地から取り寄せて、一杯ずつハンドドリップしています。フードは天然酵母の自家製パンと、読谷村特産のポーポーが中心。食事はお客様に楽しんでいただく、カレーだけを用意しています。と、オーナーの大濱智恵子さん・比嘉香さんご姉妹。「いつかはカフェを開きたい」との思いを長年温めていた智恵子さんが、5年ほど前から本格的に準備を進め、昨年12月にその夢を実現。このカフェでランチを済ませた後の、カフェ使いだけでも大歓迎です。思っただけなら、のんびり過ごしていただけたら」と話しています。

店舗はもともと住宅として使っていた木造2階建ての建物の、2階部分を活用。オーシャンビューのテラスやロフトを備え、天井まで吹き抜けになった店内は、開放的で居心地抜群。インテリアに飾られたパンフレター（粘土製の造花）は、「80歳で習い始めて85歳で教授免許を取得した」というお二人の母親、比嘉香さんが手作りしたものの、現在は桜をはじめ、冬の花を中心に展示しています。母にはごんごん制作して、お二人が季節ごとに入れ替えています。

お休み処 おおはま
住所 / 読谷村波平 1919-4
電話 / 098-988-5388
時間 / 火~金曜日 10:00~18:00
休み / 土・日・月曜日
駐車 / 2台
〈おもなメニュー〉
* ホットコーヒー 500円
* アイスコーヒー 600円
* カレー 800円
* パンとスープ 500円
* ポーポー (お持ち帰り) 1本 150円



読者 答えて

プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『お休み処 おおはま』で使える



Q 雑字クイズ
屋根瓦の端にある
大きめの瓦の名称は
「?」という?

1月号当選者 前号の答え(石けん)

- ★比嘉あけみさん(読谷村在住)
- ★島袋芳子さん(嘉手納町在住)
- ★上地尚美さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ウィンズ『広報誌係』

①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

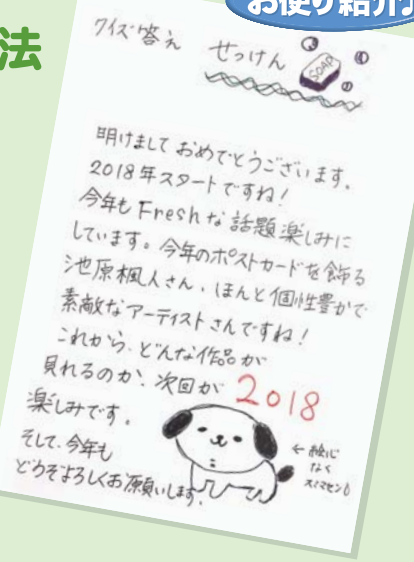
裏 ⑦ご意見
⑧ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2018年2月20日消印有効

「当選者は次号(Vol.162)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



Fresh ウインズ

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

60th Anniversary
Fresh Winds
2018年
2月号
Vol.161
TOKYO 2020



↑那覇市 役場 嘉手納町 名嘉病院 比嘉川 読谷高校 ファミリーマート おきなわ 道の駅 養蜂舎 読谷村 伊良皆 名護市

(株)池原建設 企画事業部ウインズ
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや
補修等のご相談は、お気軽に
スタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

今月の歳時記

- 2月3日(土)~12日(月・祝)
- 2月10日(土)・11日(日)
- 2月18日(日)
- 2月24日(土)・25日(日)

- 沖縄国際洋蘭博覧会2018**
会場・開催地 / 本部町・海洋博公園 熱帯ドリームセンター
- 那覇美らさくらまつり**
会場・開催地 / 那覇市・漫湖公園
- 第26回 2018おきなわマラソン**
会場・開催地 / 沖縄市・沖縄県総合運動公園(スタート・フィニッシュ)
- 読谷やちむん市**
会場・開催地 / 読谷ファーマーズマーケット「ゆんた市場」前広場

桜前線が南下中。2月に入ると本島中南部でも見頃を迎え、那覇市や八重瀬町では恒例の桜祭りが催されます。2月の沖縄はまた、プロ野球春季キャンプの季節です。今月は中面で、読谷村が取り組む「スポーツコンベンション」を特集しています。





Street Story!

19年ラグビーW杯、20年東京五輪を見据え 読谷をスポーツキャンパの「聖地」に



ラグビーボールと「パイアボール」を手に、「スポーツキャンプを通じた地域振興を」と語る石嶺傳實・読谷村長。村庁舎の応接室には、これまで読谷村でキャンプを行ったスポーツチームのユニホームがずらりと飾られています

1997年から読谷平和の森球場で春季キャンプを行うプロ野球・中日ドラゴンズ2軍をはじめ、サッカー、ラグビー、ソフトボール、陸上競技など、キャンプ地として読谷村を選ぶスポーツチームやアスリートが年々増えています。今後も官民を挙げて受入体制の強化を図り、「スポーツキャンプ」といえば沖繩・読谷村というブランドを確立させたい」と意気込む石嶺傳實・読谷村長に、これまでの実績や現下の計画・構想について話を聞きました。

■競技場・宿泊所・リゾートが一体となった恵まれた環境

読谷村における過去5年間（2013年～17年）のスポーツキャンプの受け入れ実績は、8・13・15・20・21回と年々右肩上がり。競技の種類もパラエティーに富み、しかもプロ野球・中日ドラゴンズ2軍をはじめ、サッカー・Jリーグのサガン鳥栖やヴィッセル神戸、ラグビーや女子ソフトボールの



読谷村をアスリートの第2の故郷に。誘致計画の大きな目標は、キャンプで訪れた選手らに「次回もぜひ読谷村で」と感じてもらうこと

日本代表チーム等々、国内トップレベルのチームが続々と集まっています。この他パラリンピック陸上競技の日本代表選手が合宿を行うなど、アスリート個人が自主トレや心身のメンテナンスのために来村するケースも多数。そしてプロ野球キャンプのように練習・トレーニングを一般公開していれば、憧れのチームや選手を一目見ようと県内外からたくさんの方々が訪れ、経済効果も生まれます。また地元の子どもたちにとっては、多感な時期に超一流の技術を間近に見られることで、多大な教育効果が期待できるでしょう。

石嶺村長は、スポーツキャンプ地として読谷村の人氣が高まってきた理由について、次の3つのポイントを挙げています。
①自然に恵まれた、練習効率の高い施設環境
②プロの厳しい要求に応える充実した設備
③官民一体となった「よみたん流おもてなし」
このうち①については、「競技場と宿泊施設の距離が近く、移動が少なく済む立地条件や、海が見渡せてリフレッシュできるリゾート色豊かな環境である点などが、



芝の状態も良く、ラグビー合宿の「聖地」として年々評判の高まる残波岬ボールパーク

関係者の皆様には高く評価いただいています」とのこと。例えば残波岬周辺の環境を見ると、沖繩残波岬ロイヤルホテルの敷地内には屋内練習場とトレーニングジムがあり、ラグビーやサッカーに利用できる「残波岬ボールパーク」が隣接。さらに目の前には残波ビーチが広がっています。選手たちは滞在中、ホテルから歩いて練習に向かうことができ、チーム練習の前後には、個人で自由に体を動かせる環境も整っています。またホテルの部屋から海を眺めたり、気軽に浜辺を散歩したりすることで、オンとオフの切り替えもスムーズに行えます。

■ラグビー・サッカー用のコートと屋内練習場が新たに開設予定

沖繩でのスポーツ合宿・キャンプニーズが高いことを背景に、県がスポーツツーリズム関連の取り組みを本格的に始めたのが2010年。以後は続々とさまざまな施策が打ち出され、各自治体や関係機関の役割分担・調整も進み、それと歩調を合わせるように読谷村でも受入体制を整備していきました。
ハード面②では、11年に陸上競技場、13年に残波岬ボールパークを新たに開設した他、14年には読谷平和の森球場のリニューアルを行いました。

「勝負の世界はシビアですが、せつかく来ていただきたい。満足いく練習ができないと判断されてしまったら次はありません。維持管理するのも常に真剣勝負です」

その点、現状では受け入れ実績が年々増加していることから、着実に評価を得られているといえるでしょう。例えば残波岬ボールパークは、県外・海外のラグビー関係者から「天然芝の質が秀逸」との感想が多数聞かれ、オープン後の年間キャンプ実績は2・3・4・8・10回。新聞報道では「新たなラグビー合宿の「聖地」に」と紹介された



キャンプでの滞在中にはスポーツ教室などの交流イベントも実施

■地元で練習を積んだ選手たちが世界の檜舞台で活躍する

ソフト面③では「ホスピタリティあふれる村の姿勢」も高く評価されています。キャンプインに合わせて飲

こともありません。今後は同じ残波岬周辺に、ホテルがコートをもう一面増やす計画があります。「全国からたくさんの方が、わせをいただくようになり、収容力の拡大が急務です。コートが最低2面あれば、キャンプ中のチーム同士で対戦できるメリットもありますからね」。

また読谷平和の森球場周辺に、屋内練習場を新設するプランもあるそうです。

「各団体の垣根が低く、即座に連携して協力態勢を取れることが読谷の強みです。私たちもキャンプ地として、どんどん進化していかなければいけません」。



沖繩県選抜小学生ラグビーチームとサクラセブンスの皆さん

また村長自身が一行政マンである以前に、根っからのスポーツマンであることも見逃せません。高校・大学・社会人と16年間にわたってラグビーをプレーし、現役引退後には、花園を目指す高校ラグビー予選のレフェリーも務めました。キャンプを行う関係者からは「村長と直々に意見を交わし、スポーツに対する熱い思いに胸を打たれた」との声も聞かれます。サーピス精神も旺盛で、「ラグビーの歓迎レセプションでは、私の畑で育てたパイアをラグビーボールに見立

てて、一人ずつスクリーンパスしていくのがいつもの習わしです(笑)。他の球技ではパイアの代わりに、サーターアンダギーをプレゼントしています」。

来年に迫ったラグビーワールドカップ日本大会に向けて、読谷村は公認キャンプ地に立候補しており、翌2020年には東京オリンピックが控え、世界のトップアスリートがこれから続々と来村することが大いに期待されます。

石嶺村長は「本番前の練習拠点として読谷を選んでくれたチームや選手たちが、世界の檜舞台で活躍できるよう、村全体で盛り上げていきたいと思います」と広く村民に呼びかけています。